

国分寺崖線 2 (瀬田から岡本・次大夫堀公園へ)

東京建築士会世田谷支部では、世田谷の都市・住宅地が形成されてきた歴史を旧版地形図等資料を参照しながら辿る「まちあるき」を行っています。

今回は、前回の(等々力から上野毛・二子玉川)に続き、瀬田から岡本、成城学園まで、国分寺崖線沿いの地域を歩きます。

国分寺崖線とは、立川市から国分寺市などを經由し、世田谷区から大田区へと延長約30kmに及ぶ崖(河岸段丘)の連なりです。世田谷区内では、多摩川と野川に沿って約8km続き、高低差10~20mの斜面からなります。

国分寺崖線沿いは、先史からの歴史を有し、大山道・筏道と言った古道が開かれ、江戸以降は、小泉次大夫による六郷用水路(次大夫堀)の整備を受け、農村として開発されてきた場所ですが、大正期から鉄道の開通と共に、財界人などの別荘地として、そして大正期から始まった玉川全円耕地整理事業等により住宅地として開発されてきました。瀬田から岡本にかけての地域は、前回同様、敷地規模の大きい旧別荘地の緑が継承され、良好な住宅地としての景観を呈している地域です。

用賀駅に集合し、小坂順造別邸から岩崎家別邸の静嘉堂文庫美術館、岡本公園民家園、次大夫堀公園民家園を楽しみながら、成城学園前駅へ到る徒歩約7km+バス便1.6kmです。是非ご参加下さい。宜しくお願い致します。

開催日時： 2018年 9月29日(土) 13:00~18:00

(雨天決行としますが、荒天が予測される場合は、メールにて連絡します)

集合場所： 東急電鉄田園都市線用賀駅 改札口(1ヵ所です)の前

参加費： 500円(AIU 切り払い傷害保険50円を含む)に加えて、バス代220円+静嘉堂文庫美術館入館料1000円が必要です。

尚、静嘉堂文庫美術館の展覧会は「幕末の北方探検家 松浦武二郎展」。

連絡先： 中村彰 naa-a@nifty.com (携帯 09032319345)

- 参加希望者は 9月21日までに
お名前、当日使用される携帯電話番号を添え、中村宛メールにてお申し込み下さい。定員20名、定員オーバーの場合はご連絡申し上げます。
- 尚、支部会員の増強を考えております。ご友人に建築士の方がいらっしゃいましたら、是非お誘い下さい。

